

保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果(公表)

公表：令和8年2月17日

事業所名　いが児童発達支援センター　れいあこ　保護者等数（児童数）　82名　回収数　56名　割合　68%

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	56					子どもの様子やプログラム内容によって、1人1人が十分に活動できるよう、クラスだけでなく、ホールや園庭等も活用しています。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	45		1	10		クラスには子どもの人数や様子に合わせた職員配置を行っております。
	3	活動スペースは子ども達が分かりやすく過ごしやすい環境になっているか。また事業所の設備は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切にされているか。	52		1	3		
	4	生活空間が心地よく過ごせる環境になっていますか。また子どもの活動に合わせた空間となっていますか。	54			2		
適切な支援の提供	5	子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	52	2	1	1		様々な側面から子どもを理解し、支援を行えるよう、多職種の職員が日頃から支援を行う体制を整えています。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	50	1	1	4		今年度も支援プログラムの作成を行い、HPで公表しております。事業所の取り組みや大切にしていることを掲載しましたので、ご覧下さい。
	7	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	55			1		子どもや保護者のニーズを把握、会議での検討を行い、個別支援計画を作成しています。作成時には本人支援、家族支援、移行支援について検討し、具体的な支援内容を設定するように努めています。
	8	児童発達支援計画には「本人支援」「家族支援」「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な内容が設定されていると思いますか。	51			5		
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	52			4		
	10	同じプログラム活動ばかりではなく、様々なプログラム活動が実施されているか。	47	2		7		毎月、保育活動会議を実施し、多職種の職員がチームとなりプログラム活動の立案をしています。子どもの興味関心の幅が広がるように工夫したプログラム活動を検討しています。

	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で子どもと活動する機会がありますか。	30	5	2	19	今後地域のこども関係施設との交流について引き続き検討し、より幅広い経験の提供ができるようにしていきます。	
保護者への説明等	12	契約時、支援の内容や利用料金について丁寧な説明がされているか。	55			1	書類については、継続して丁寧な説明を心がけていきます。	
	13	児童発達支援のねらいや支援内容に基づいて作成された児童発達支援計画を示しながら、支援内容の説明がされているか。	55			*無記入1名	児童発達支援計画は保護者面談を実施し、計画内容を写真や実際のエピソードと共に分かりやすく説明するようにしています。	
	14	事業所では、家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	49	1		5	*無記入1名	今年度は保護者勉強会を実施しました。昨年度託児があると参加しやすいとのご意見を頂き、託児可能とさせて頂きました。今後も保護者の方々と一緒に学ぶことができる勉強会、情報共有会を企画していきます。
	15	れいあろはでの様子、家や保育所（園）や幼稚園での様子など職員と保護者が伝え合い、子どもの状況について共通理解ができているか。	53			2	*無記入1名 ・月1回面談をして欲しい。 ・毎回その日の様子を細かくノートに書いて下さり、イベントの時にはたくさん写真も撮ってプリントした物を頂いています。	今後もご家庭や保育所（園）、こども園、幼稚園での様子について情報共有し、定期的に面談の機会を設け安心してご利用いただけるように努めています。定期的な面談実施時期以外でも面談実施は可能ですので、ご希望のある方はいつでもお声掛け下さい。
	16	定期的に、保護者に対して、子育てなどに関する助言等の支援が行われているか	42	6	1	6	*無記入1名	
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	50	1	1	3	*無記入1名	
	18	保護者の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。またきょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	27	11	6	11	*無記入1名 ・保護者同士の交流はあったがきょうだい向けのイベントは覚えがありません。 ・以前参加させていただき、他のお子さんやれいあろはでの本人の様子を聞くことができ満足します。	今年度は保護者交流会（年齢別）を実施しました。今後も保護者のニーズ把握を行いながら、企画していきます。
	19	苦情・要望に対応する体制について説明がされているか。また苦情・要望があつた場合、迅速・丁寧に対応されているか。	40	2	2	11	*無記入1名	契約時に苦情・要望体制についてお伝えさせて頂いております。何かご意見等ありましたら、いつでもお声掛け下さい。
	20	定期的におたよりやホームページで活動内容や行事予定、連絡等の情報が発信されているか。	54			1	*無記入1名 写真のプリントで様子が分かりうれしかったです。	毎月お便りを発行し、活動内容や連絡事項、各種研修・訓練等の実施状況を発信しております。今後より分かりやすく情報発信できるよう、検討していきます。
	21	子どもや保護者との情報共有のための配慮がされているか。	51	3		1	*無記入1名	
	22	個人情報の取り扱いに十分注意されているか	54			1	*無記入1名	

参考様式A4(自己評価等関係)

児童発達支援事業所における自己評価表(令和7年度)

チェック項目		はい	いいえ	無回答	工夫している点、課題や改善すべき点など	改善目標・努力している点
環境体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7	1		・部屋に対して職員が子どもの数が多い時がある。	子どもの年齢、遊びの様子に合わせたクラス編成を行っています。遊びの内容によって適切な広さで取り組めるよう、朝礼で当日の活動を確認しています。 外遊びが好きな子どもが多いため、継続してより安全に楽しく活動できる環境を整えられるよう、検討していきます。
	2 職員の配置数は適切である	8				
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	6	1	1	・まだまだ工夫が出来るはず。より良い環境にするために「いいえ」にした。 ・もっと工夫できると思う。	子どもにとってより分かりやすい環境になるように定期的に見直しを行い、工夫・改善に努めています。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	7	1			
	5 必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8				子どもの様子に合わせ、安心して過ごせる環境を設定できるようにしています。
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に広く職員が参画しているか。	5	1	2		毎年行っているガイドラインアンケートから課題抽出を行っています。 課題については次年度の業務計画に反映させ、改善に努めています。その他、即座に対応できることについては、周知し、業務の見直しや修正に取り組んでいます。
	7 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6		2		
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		2		
	9 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6		2		
	10 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	4	2	2	・第三者による評価の機会がない。	
	11 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8				
	12 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8				
適切な支援の提供	13 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	8				個別支援会議にて子どものニーズについて話し合うようにしています。 活動の様子から子どもが望んでいることを考え、どのような支援を行うと実現、または実現に近付くのかを検討するようにしています。
	14 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8			好きな事・ニーズは検討している。	
	15 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7		1	今年はケース会議がなくなり、例年使用していたツールを使わなくなった。	
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	8				
	17 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	7	1		・児童発達支援計画がいつでも閲覧できるようになっているが、十分に確認できていなかったことがあった。	記録入力ソフトに個別支援計画を入力し、記録入力時など、いつでも個別支援計画が確認できるように工夫しています。各職員が個別支援計画を意識して、支援が行われるように努めています。

適切な支援の提供	18 活動プログラムの立案をチームで行っている	7	1		毎月の保育活動会議を通して、チームで話し合い活動プログラムの立案をしています。	
	19 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6	2	・固定化しないように新しい案などを皆で検討している。 ・活動計画に沿って環境を整えているが、実際活動する中で検討したことが反映されていないと感じることがあった。	活動は前年度と同じパターンにならないよう工夫や改善を加えて計画しています。また多職種のスタッフで検討し、様々な視点からプログラムを考えています。検討時には、職員の共通認識が図れるよう、より具体的な検討を心がけていきます。	
	20 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	6	2	・子どもの様子に合わせて、個別活動と集団活動を組み合わせている。 ・個別での関わり方・クラスとしての関わり方など、支援環境、内容を今後も見直していく必要があると感じた。	今後も子どもの様子に合わせて、各クラスでの関わり方と個別の関わり方も意識し、より分かりやすい児童発達支援計画を作成するよう努めています。	
	21 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7	1	時間の都合で、詳細の確認が不十分なことが稀にある。	毎日朝礼を行い、当日の保育の流れやクラスで工夫・配慮することを全体で確認するようしています。振り返りについては、当日の支援について話し合うことはありますが、どのような事柄について振り返ることが大切なのか、再検討していく、有効的な振り返りが実施できるように取り組んでいます。	
	22 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	2	6	・必ず実施できているとは言えない。時間を設けてはしていない。 ・出来る限り「今日何がある?」と職員が迷うことや困ることを振り返っているようにしている。 ・子どもの可愛かった所も出し合っていきたい。 ・出来ていない日もある。		
	23 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7	1	・日々の支援記録は記載できている。 ・支援の検証・改善については会議のタイミングであれば記録しているが、その他は口頭のみで行ってしまうことがあった。	定期的にモニタリング会議を実施し、子どもの様子を確認し、支援を検証するようにしています。日々の記録に加え、その他の情報も共有し、個別支援計画やモニタリングに反映させていきます。	
	24 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	8				
関係機関や保護者との連携	25 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議に子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7	1		サービス担当者会議には児童発達管理責任者が参画し、意見交換を行っています。 母子保健等の関係者は随時情報共有等、連携を図っています。	
	26 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	6		2		
	27 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健・医療・障害福祉・保育・教育等の関係機関と連携した支援を行っている		1	7	現在対象となっている子どもがいない。 該当者なし。	
	28 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもとの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		1	7	現在対象となっている子どもがいない。 該当者なし。	
	29 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7		1	保護者の希望に応じて、就園先、就学先への引継ぎを行っています。就園先、就学先の方に事業所に来て頂き、様子を見て頂く機会も設けております。	
	30 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7		1		
	31 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	1	2	定期的に実施されている発達に係る研修に参加しています。	
	32 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		6	2		
	33 質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言をうけたり、職員を外部研修に参加させているか。	7		1	LDの研修・遊びの研究会・園庭の研修など、様々な研修に参加できる機会がある。	
	34 (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	3	1	4		
	35 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	1	1	6		
	36 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の子どもと活動する機会があるか。	1	5	2		

	37	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7		1	連絡帳または送迎時に実施している。	送迎時や連絡帳を用い、子どもの状況の変化を共有するようにしています。また定期的に保護者面談を実施し、支援や発達について共有しています。
	38	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	4	2	2	保護者向けの勉強会の実施。	
保護者への説明責任等	39	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7		1		引き続き、具体的且つ丁寧に説明するようになります。
	40	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	8				子どもの誕生日月にを基準に、6ヶ月に1回保護者面談を実施しています。児童発達支援計画の説明を行った上で、同意を得るようにしています。
	41	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	8				
	42	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8				心配事や相談事がある時には、随時電話相談や面談を行っています。
	43	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	7		1	保護者イベントでは、保護者同士が喋りやすいよう雰囲気作りを工夫した。	今年度は託児も可とし、保護者交流会を実施しました。引き続き保護者交流会の企画をしていきます。
	44	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	8				
	45	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	8				毎月お便りを発行し、事業所の取り組みを発信しております。今後も緊急時対応等、必要な情報を整理し、コドモンを活用し、情報発信していきます。
	46	個人情報の取扱いに十分注意している	8				
	47	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7	1			口頭だけでなく、文書を配布する、メモを渡すなど、分かりやすく伝えられるよう工夫しています。
	48	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		5	3		様々な体験が提供できるようイベントの企画を含め、検討していきます。
非常時等の対応	49	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	6		2		事業所には各マニュアルを整備し、定期的に見直しを行っています。職員は、計画に沿ってマニュアルに基づいた訓練を実施しています。必要な情報等についてはコドモン等周知しやすいツールを検討し、保護者に発信していきます。
	50	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7		1		
	51	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	7		1		医師の指示の元、保護者から依頼を受け服薬支援を行っています。
	52	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7		1		医師によるアレルギー除去指示書に基づいて、アレルギー除去食を提供しています。指示書に基づいて栄養士と連携を図り献立を作成しています。食事の提供にあたり、事前に保護者に材料入り献立を確認して頂くと共に複数の職員でチェックを行い、食事を提供しています。
	53	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7		1		安全計画に沿って研修、訓練等も行い、職員の安全に関する意識向上に努めています。
	54	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6		2		
	55	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	2	2	4		事業所内に事故防止委員会を設置し、ヒヤリハットの集約を行っています。ヒヤリハットが起こった際は記録入力すると共に翌日の打ち合わせで周知をしています。ヒヤリハット集については常に回覧できるよう、周知方法等を検討します。
	56	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7		1		

57	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	3		5		現在対象者はいませんが、身体拘束については法人で定められた手順に基づき、適正な検討を経て行われることを理解し、支援するようにしています。

公表

保護者からの事業所評価の集計結果（保育所等訪問支援事業）

事業所名		いが児童発達支援センター れいあろは							公表日	令和8年2月17日	
						利用児童数		52	回収数		32
		チェック項目		はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応		
環境・体制整備	1	訪問支援に使用する教具教材が整えられていますか。		12	0	1	18	※無回答 1	訪問時には児童発達支援事業情報を共有を行っています。		
	2	プライバシーに配慮された面接室等が整えられていますか。		29	0	1	2				
	3	事業の目的が適切に説明されていると思いますか。		31	0	0	1				
	4	保育所等訪問支援の頻度や時間について、相談の上決定されていますか。		27	2	0	3		訪問頻度は現在学期毎の年3回とさせて頂いておりますが来年度は入園後や行事前後、子どもの状況に合わせた支援提供ができるよう、保護者のご希望に合わせた頻度で実施できるよう、ご相談させて頂きます。		
適切な支援の提供	5	子どもの状態に応じた支援が提供できる職員（職種や人数）体制だと思いますか。		28	2	1	1				
	6	子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。		31	0	0	1		訪問先施設での子どもの様子に合わせ、専門性のあるスタッフが訪問実施を行えるようにしています。今後も子どもの発達に合わせた訪問体制を整えていきます。		
	7	子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、保育所等訪問支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。		29	0	0	2	※無回答 1	保育所等訪問支援計画作成にあたっては、訪問先や通所事業所（児童発達支援など）や家庭の様子から子どものニーズを大切にしています。また支援内容は、子どもの訪問先施設の環境やクラス状況等に合わせ、支援可能な内容を記載し、支援提供による子どもの変化、具体的な支援の見直しに繋がるように、心がけています。		
	8	保育所等訪問支援計画（個別支援計画）には、訪問先施設や担任等の意向が盛り込まれていると思いますか。		22	1	0	8	※無回答 1			
	9	保育所等訪問支援計画には、保育所等訪問支援ガイドラインの「保育所等訪問支援の提供すべき具体的な内容」も踏まながら、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。		29	0	0	2	※無回答 1			
	10	保育所等訪問支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。		30	0	0	1	※無回答 1			
	11	保育所等訪問支援を実施する際、訪問先施設に配慮した支援が行われていると思いますか。		26	0	0	5	※無回答 1			
保護者へ	12	事業所を利用する際に、運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。		31	0	0	0	※無回答 1	契約時に事業内容等、書面を見ながら分かりやすくお伝えするように心掛けています。分からぬことや疑問に思ったこと等があれば、訪問スタッフまでお気軽にお声掛け下さい。		
	13	「保育所等訪問支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。		31	0	0	0	※無回答 1			
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレンツ・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行なわれていますか。		28	0	1	1	※無回答 1	児童発達支援センターの取り組みとして、今年度は保護者勉強会を実施しました。昨年度、託児があると参加しやすいとのご意見を頂き、託児可能とさせて頂きました。今後も子どもの発達について保護者の方々と一緒に学ぶことができる勉強会を企画していきます。		
	15	必要なときに子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができていると思いますか。		27	0	0	1	※無回答 4	訪問後には保護者面談を行い、訪問先での様子や支援状況の共有、また心配なこと等をお伝えし合えるようにしている。訪問実施時期と異なる時期であっても、児童発達支援事業と連携を図り、随時面談等の支援を行っております。心配や気になることがありますたら、いつでも事業所までご連絡下さい。		
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。		26	1	0	1	※無回答 4			
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。		26	1	0	1	※無回答 4			

の説明等	18	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	25	0	0	2	※無回答5	
	19	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	27	0	0	1	※無回答4	必要に応じて、通訳アプリや写真等を使用し、分かりやすく情報伝達ができるよう心がけています。今後もより分かりやすく、お伝えできるよう工夫していきます。
	20	事業所は、訪問先施設からの相談等に適切に応じ、必要な助言と支援が行われていると思いますか。	24	0	0	3	※無回答5	訪問先から相談があった場合は、随時面談、電話等で必要な対応をさせて頂いております。
	21	保育所等訪問支援を実施した際に、訪問先施設と訪問支援の内容について話し合いが行われていると思いますか。	23	0	0	4	※無回答5	訪問後には、訪問先施設担当者と支援内容の確認、大切にしたいこと等、話し合いを行っております。今後も訪問先施設担当者と話し合いを行い、共有ができる関係作りを行っていきます。
	22	保育所等訪問支援を実施した際に、保護者に対して適切に共有がなされていると思いますか。	27	0	0	0	※無回答5	訪問後には保護者面談を実施し、訪問先での様子や訪問先施設と懇談した内容を、お伝えするようにしています。就労等の理由から面談が難しい場合は、文書で報告するなど、その都度対応させて頂いています。
	23	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	27	0	0	1	※無回答4	児童発達支援センターとして、毎月お便りを発行しております。お便りには活動報告、各種研修や訓練の実施報告等を掲載しておりますので、ご覧下さい。
非常時等の対応	24	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	28	0	0	0	※無回答4	
	25	事業所では、緊急時の対応について訪問先施設と連携し、実践できるようにしていると思いますか。	22	1	0	5	※無回答4	
	26	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	26	0	0	2	※無回答4	契約時に、事業所で行っている安全計画に基づく研修・訓練について周知させて頂いております。お便りにも実施報告を掲載しております。
満足度	27	こどもは訪問支援を嫌がっていませんか。	6	0	22	1	※無回答4	今後も訪問先施設と連携を図り、子どものニーズを大切に考えた支援が行えるように取り組んでいきます。
	28	事業所の支援に満足していますか。	25	0	0	2	※無回答4 発達の主治医の先生に個別支援計画書を見て頂いたところ、「これだけしっかりと見ていただけたら、いいですね」と言って頂きました。	

公表

訪問先施設からの事業所評価の集計結果（保育所等訪問支援）

事業所名

いが児童発達支援センター れいあろは

公表日 令和8年2月17日

訪問先施設数

20

回収数

20

	チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	ご意見	ご意見を踏まえた対応
1	訪問支援員からの助言や説明は、具体的でわかりやすく、取り入れやすいものですか。	18	2	0	<ul style="list-style-type: none"> ・説明は分かりやすいが、助言の中にはケースにより取り入れにくいこともある。 ・保育について再確認でき、取り入れやすく分かりやすいです。 ・分かりやすくよかったです。さらに動画などがあれば、より分かりやすいです。 ・専門的な説明で分かりやすかった。 ・毎日の姿とれいあろはでの姿 同じところもあれば、違うところもあると思うので、難しい。 ・いつも丁寧に対応していただきありがとうございます。 ・助言や説明はとても具体的なので、すぐに実践につなげることができます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問時には訪問先担当者とイメージを共有しながら、話し合いができるよう心がけています。必要に応じ、写真や動画等も使用し、より分かりやすくお伝えしていきます。 ・訪問先施設、事業所、家庭での子どもの様子を把握し、子どもの全体像を捉えた上で支援を行えるように努めています。
2	訪問支援員の支援に対する知識・技術等に満足していますか。	19	1	0	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの行動の理由を考えることや専門的な見地から助言を頂けるので有難い。 ・助言していただく内容や子どもの発達の視点など日常の具体的な関わりに活かすことが出来て有難いです。 ・専門的な視点、角度から本児の姿を捉えてくれるので安心できます。 ・専門的な面からのアドバイスをしてもらいました。 ・専門知識を教えてもらい、技術を真似させてもらえるので良かったです。 ・5歳児健診や面談など、保育者や保護者に適切なアドバイスをしていただきありがとうございました。今後ともよろしくお願いします。 ・専門的な知識や支援方法を教えていただけるのでとても勉強になる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの様子や保護者の心配事等に合わせ、専門性のある訪問スタッフが特性に合わせた支援を行えるよう、支援体制を整えていきます。また発達的な視点に加え、訪問先施設でどのような支援に繋げていくか、具体的な助言ができるようにしていきます。
3	訪問支援員は質問に対して、適時・適切に回答してくれていますか。	18	2	0	<ul style="list-style-type: none"> ・何名を見て頂いたので、あまりゆっくりと支援員の方とお話ができない気がします。 ・限られた機会の中でタイムリーに質問できないこともありますが、質問に対して丁寧に回答を頂けている。 ・困りごとに適切なアドバイスをもらっています。 ・とても丁寧に説明して頂きました。 ・相談に乗っていただき、支援方法を教えてもらえて学びになりました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問時には、子どもの人数に関わらず十分な情報共有や支援の検討が行えるように配慮し、日程調整を行っていきます。
4	保育所等訪問支援を利用したことでの課題や困りごとが解消または軽減されましたか。	16	3	1	<ul style="list-style-type: none"> ・課題や困りごと自体がすぐ解消されないが、保育者自身の気持ちの持ち方が変わり、軽減に繋がる。 ・課題や困りごとが軽減され、本児にとって保育所生活がスムーズに進れると思います。 ・施設と保育所との姿を比較し、課題が見えていました。 ・共に保育をしてくれているという安心感がありました。 ・こどもたちの特性に合った関わり方を教えていただいている。 ・これでいいのかどう悩みながら保育をしている時などアドバイスをもらえてよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの姿、興味関心の広がりや発達状況から、困り事をどのように捉えるか、発達的な視点でお伝えすることで、訪問先担当者が安心して子どもと関わることができるよう心がけています。困り事や気になる事などありましたら、随時相談を受け付けておりますので、ご連絡下さい。
5	事業所からの支援に満足していますか。	19	1	0	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもを受容することの大切さを再確認出来る機会となっている。 ・途切れなく連携し、支援計画を進める必要があるかと思います。 ・満足です。 ・どう関わればよいのかなど、分からぬことが多いので、専門の事業所があつてよかったです。 ・訪問していただいたことで、変化があったかどうかというと、分からぬ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後もよりよい支援を行うために、個別支援計画を含め、引継ぎ等、丁寧に実施していきます。訪問時期のご希望や児童発達支援事業所への訪問等も、調整させて頂きますので随時ご相談下さい。

その他のご意見

- ・子どもの様子が共有でき、個別支援計画を参考にさせていただくことで関わり方など職員間で周知しやすくなりました。今後共どうぞよろしくお願ひいたします。ご指導ください。
- ・いつもお世話になっております。個別支援が必要な子どもの姿や言葉掛け、関わりなど、いつも丁寧な説明を受けて情報共有をしていただき、保育所での配慮事項や悩みに対する適切な指導も含めて、私たち保育士が学ばせていただくことがあります。これからもよろしくお願いします。
- ・現在支援いただいている子どもへの向き合い方に悩みや迷いを感じることがあるが、訪問時にれいあろはでの様子をお聞きしたり、アドバイス頂く中で「この方法でいいんだ」と確信が持てたり、違った角度からのアプローチを学ぶことができ、有難いです。
- ・保護者の思いを共有したい。
- ・今後もしっかり連携を取り合い、気になる子どもへの関りを共有していきたいと思います。
- ・施設での子どもの様子を具体的に説明していただきました。共通認識をしていくためにも、施設見学をさせていただいたり、可能な範囲で個人目標や支援内容などを教えていただけると、自分たちの保育にも取り入れて行けるのではないか…と思いました。今後ともよろしくお願い致します。
- ・保育所等訪問が追う少し早い時期に実施されるとありがたいです。新学期特に環境が変わり子どもの戸惑いを感じられるのでアドバイスや情報交換し保育や支援、関わり方を学ばせて欲しい。
- ・子どもたちがれいあろはでどのような環境の中で遊んでいる（生活している）のか見せていただき、環境設定の参考にさせていただきます。
- ・保育所等訪問支援計画について詳しく説明していただけることで、日々の保育に参考にさせていただく点が多かったです。また、保護者の方の姿や思い等も共有することができ良かったです。
- ・専門的な観点からの意見をうかがうことができ、ありがたく思います。いつもありがとうございます。

公表

事業所における自己評価結果（保育所等訪問支援事業）

事業所名	いが児童発達支援センター れいあろは				公表日	令和8年2月17日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫していると思う点・改善が必要だと思われる点など	課題や改善すべき点	
体制・整備	1 訪問支援に使用する場合の教具教材は適切であるか。	3	0			訪問実施にあたり、写真や動画など支援を検討する際に必要となる物品の準備を行い、より有効的に訪問支援が実施できるようにしていきます。
	2 利用希望者に対して、職員の配置数は適切であるか。	3	0			昨年度より訪問スタッフが1名増員したため、ご希望に合わせた訪問支援が行われるを考えています。
業務改善	3 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	3	0			毎年、保護者向け・訪問先施設向け・事業所職員向けの自己評価を行い、支援の見直しや業務改善に努めています。
	4 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3	0	アンケートから課題を抽出し、次年度の具体的な取り組みを考えるようにしている。		
	5 従業者の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3	0			
	6 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	1			
	7 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	3	0	福祉だけでなく、保育や教育など様々な研修を受ける機会がある。		様々な研修や勉強会に参加し、支援の質の向上に努めています。学んだことをどのように活かすか検討し、支援に繋げています。
適切な支援の提供	8 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、保育所等訪問支援計画を作成しているか。	3	0	アセスメントを基にこどものニーズ、希望を考えながら保育所等訪問支援計画を作成するよう心掛けている。		
	9 保育所等訪問支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	2	1	複数の職員で検討するようしている。 訪問先で十分な支援ができている程には職員間での検討が行われていないと感じる。		支援の検討にあたっては、こどもや保護者・訪問先施設担当者の想いに寄り添い、こども自身が伸び伸びと活動できる環境・支援を検討するように心がけています。現状の支援を確認し、訪問先施設と連携しながら保育所等訪問支援計画書の作成ができるように検討していきます。
	10 保育所等訪問支援計画を作成する際には、訪問先施設の担当者等と連携し、訪問先施設や担任等の意向を盛り込んでいるか。	2	1	訪問先でのこどもの様子を含め、出来るだけ具体的な内容で保育所等訪問支援計画を作成するようしている。 保育所等訪問支援計画を見て頂く機会は作っているが意向を確認し盛り込むことは難しい場面が多い。 保育所等訪問支援計画作成について丁寧に訪問先に伝えたり、意向を盛り込んでいるため訪問先から「作成出来たら見せて下さい」と言ってもらえると感じる。		
	11 保育所等訪問支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	3	0	訪問先で保育所等訪問支援計画がどのように活用されているかは把握していない。		
	12 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	3	0	アセスメントシートを作成し、シートに基づいて行動観察を行っている。		
	13 保育所等訪問支援計画には、保育所等訪問支援ガイドラインの「保育所等訪問支援の具体的な内容」も踏まえながら、具体的な支援内容が設定されているか。	3	0			本人支援、家族支援等、具体的な支援内容を設定するようにしています。
	14 保育所等訪問支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	3	0			
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	2	1	どのような場面を特に観察・聞き取るか、また保護者の心配を確認してから、訪問支援を行ふようにしている。 情報共有をしているがチームで連携した支援は行えていない。		訪問後には訪問スタッフが情報共有を行うようになります。今後、どのような支援を行ったのか、又次回訪問時に確認すべきことは何か等、より丁寧な準備や振り返りが行えるよう、検討していきます。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	2	1	訪問担当職員で当日の様子を共有するようにしている。 情報共有のみで終わることが多い。		
	17 保育所等訪問支援を実施する際、訪問先の理念や支援手法を尊重して支援を行っているか。	2	1	訪問先の体制やクラス状況を考慮し、出来るだけ現実的な支援に繋げられることを伝えるようにしている。		

	18	毎回の支援に関して、記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善に繋げているか。	3	0		
	19	定期的に保護者や訪問先の意向の確認やモニタリングを行い、保育所等訪問支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	2	1	6ヶ月に1回モニタリングを行っている。	
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	3	0		
	21	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	3	0	必要に応じて、市や教育・保育関係機関と情報共有を行っている。 研修する機会があり、地域の先生方と交流し、しあんについて考える場となって連携して行ける体制となりつつあると感じている。	関係者と情報共有を含む連携を行なながら、日々支援をしています。今後も必要に応じて、関係期間と連携できる体制を整えていきます。
	22	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	3	0	保護者の希望に応じてあるが、引継ぎや児童発達支援事業の見学を促している。	保護者の希望により就学先との情報共有、引継ぎを行っています。
	23	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等に助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	3	0	様々な研修に参加する機会がある。	今後も様々な研修に参加し、専門性の向上を図っていけるように取り組みます。
	24	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	1	2		
	25	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	2	1	訪問後には、保護者と面談をし子の様子や現在の支援内容の確認を行っている。 面談の機会が十分にとれていない。 訪問した後の報告だけでなく、事業所で開かれる会や送迎での時に子どもたちの様子を話せる機会があり、共有しやすいと感じる。	訪問後には保護者面談を実施し、状況の共通理解が図れるようにしています。今後、面談だけでなく日頃から、状況の確認・共有ができるよう検討していきます。
	26	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	0	今年度は児発センターとして、からだづくりについて保護者学習会を実施した。その他年齢に応じた情報提供は今後の課題。 ペアレントトレーニングはしていないが、年齢別で父母に参加してもらえる研修をして、子どもたちの姿を見てもらう機会がある。	児童発達支援センターの取り組みとして、今年度は保護者勉強会を実施しました。昨年度、託児があると参加しやすいとのご意見を頂き、託児可能とさせて頂きました。今後も子どもの発達について保護者の方々と一緒に学ぶことができる勉強会を企画していきます。
	27	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	3	0		
保護者等への説明等	28	訪問先施設に対し、事業の趣旨や訪問支援の目的等について適切に説明を行っているか。	3	0	訪問先に目的や具体的な支援内容を説明した後に、訪問支援を行うようにしている。	初回訪問前には、訪問先施設に事業の説明や訪問支援の方法等を説明し、有効的な訪問支援が行えるようにしています。
	29	保育所等訪問支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	3	0	こどもたちのお家の様子やご家族の思いを聞くことを面談という形だけでなく、送迎の時や別件で施設に来られた時などで聞いている。	
	30	「保育所等訪問支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から保育所等訪問支援計画の同意を得ているか。	3	0	面談を行い、保育所等訪問支援計画を説明している。	保護者面談を実施し、保育所等訪問支援計画を説明するようにしています。説明時はできるだけイメージが持てるよう、分かりやすい表現でお伝えできるように心がけています。
	31	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか。	3	0	保護者から心配事について、相談があった時に面談を行うようにしている。	子育ての悩み等、心配な事は面談時のみではなく、随時、電話相談や面談を行うようにしています。
	32	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	2	1	保護者勉強会や交流会は実施したが、きょうだい同士の交流の機会を設けるまでは至っていない。	
	33	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	3	0	保護者から心配事について、相談があった時に面談を行うようにしている。	相談がある時には随時、訪問スタッフを窓口とし連絡頂けるよう、契約時に周知しています。
	34	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	2	1	センターとして、お便りを発行している（月1回） 保育所訪問として発信は出来ていない。	児童発達支援センターとして、毎月お便りを発行しております。お便りには活動報告、各種研修や訓練の実施報告等を掲載しておりますので、ご覧下さい。
	35	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	3	0		
	36	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	3	0		

訪問先施設への説明等	37	訪問支援に加え、訪問先からの相談等に適切に応じる体制を整え、必要な助言や支援を行っているか。	3	0	担当窓口を明確にし、相談や情報共有がしやすいようにしている。	困り事や気になる事などありましたら、隨時相談を受け付けておりますので、ご連絡下さい。
	38	保育所等訪問支援の実施後に、訪問先施設とカンファレンスを行っているか。	2	1	毎回訪問後には、カンファレンスを実施している。カンファレンスの時間がなかなかとれない中、日程調整をし直したり、電話で対応したりと臨機応変に対応している。	訪問後は支援状況の確認、最近の様子、今後の支援についてカンファレンスを実施している。今後もカンファレンスは実施していくますが、方法につきましては柔軟に対応していきます。
	39	保育所等訪問支援の実施後に、家族等へ適切に支援内容等の共有を行っているか。	3	0	訪問後に保護者面談を実施し、支援内容・様子を共有している。面談が難しい場合は、書面で共有している。	訪問後には保護者面談を実施し、訪問先での様子や訪問先施設と懇談した内容を、お伝えするようにしています。就労等の理由から面談が難しい場合は、文書で報告するなど、その都度対応させて頂いています。
	40	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	3	0		
	41	訪問先施設からの相談に適切に応じ、信頼関係を築きながら、専門的な助言を行っているか。	2	1	訪問先の先生方の思いを汲みながら、丁寧にこども達の身体の発達について説明等している。	
非常時等の対応	42	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	3	0	センター全職員で研修・訓練を実施している。研修・訓練計画も契約時に周知している。	
	43	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	3	0		
	44	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	3	0	事業特性上、ヒヤリハットは生じていないが、センターとして共有・検討は実施している。	
	45	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	3	0	現在該当児はないが、職員は身体拘束について学び、必要な手続きを把握している。	定期的に虐待防止研修、身体拘束等に係る研修を実施しています。講義だけでなく、ディスカッションを行い、日々の支援を振り返り、よりよい支援を目指して取り組んでいきます。
	46	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	3	0		

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	いが児童発達支援センターれいあろは		
○保護者評価実施期間	令和7年12月15日 ~ 令和8年1月9日		
○保護者評価有効回答数 (対象者数)	83	(回答者数)	56
○従業者評価実施期間	令和7年7月12月22日 ~ 令和8年1月9日		
○従業者評価有効回答数 (対象者数)	8	(回答者数)	8
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月6日		

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	環境を活かした、多様な保育活動の実施。	・専門職、保育士等、様々な職員と意見交換しながらこどもたちの発達を捉え、保育活動の内容や環境設定の検討を行っている。	・5領域に基づいた活動のねらいをより明確にし、こどもが主体的に活動できる環境、支援を検討する。 ・保育活動に係る書式の見直しを行い、より実践に繋がるよう、P D C Aサイクルで取り組む。
2	定期的に保護者面談を実施し、家庭・保育所（園）、こども園、幼稚園・事業所でのこどもの様子を共有することができている。	・面談では、書面で説明するだけではなく、写真等を用いてこどもが活動している様子を分かりやすく、伝えるようにしている。	・面談時だけではなく、こどもの様子をさらに共有できるような方法を検討する。

	事業所の弱み（※）だと思われる事 ※事業所の課題や改善が必要だと思われる事	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	振り返りや打ち合わせの実施が不十分	振り返りや打ち合わせでの情報共有が、現場支援で必要な情報共有になっておらず、必要な情報が抜け落ちてしまう可能性がある。	・報連相の体制の再確認を行う。また現場支援において必要な情報については、周知・共有方法を再検討し、情報が抜けることのないようにする。
2	保護者勉強会、情報共有会の実施	・保護者勉強会、情報共有会を年齢別で実施しているが、企画内容が子どもの年齢や発達と合わず、保護者が聞きたいタイミングではない可能性がある。	・保護者勉強会、情報共有会に係る年間計画の見直しを行い、年齢に合わせた勉強会、情報共有会を企画・実施する。
3	保育活動だけでなく、事業所の取り組み内容の周知が不十分	・連絡内容がお便りへの掲載や文書配布が多く、保護者の方に確認して頂きにくい媒体となっている。	・保育アプリ（コドモン）を活用し、保護者が必要に応じて、連絡事項や周知事項を確認できるようにする。

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	いが児童発達支援センター れいあろは			
○保護者評価実施期間		令和7年12月15日	～	令和8年1月9日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	52	(回答者数)	32
○従業者評価実施期間		令和7年12月15日	～	令和8年1月9日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数)	3
○訪問先施設評価実施期間		令和7年12月15日	～	令和8年1月9日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	20	(回答数)	20
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月6日			

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門職による訪問や研修の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・専門職の増員により、希望に合わせた訪問回数の実施 ・就学前の時期に重要な、からだ作りに関する助言の充実 ・からだ作りに関する研修（保育士向け）を実施し、支援の共通認識を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や訪問先施設の希望に合わせ、訪問回数や訪問時期を調整する。 ・訪問先施設での活動、子どもの様子に沿った具体的な助言を行い、保育・教育に活かせるようにする。 ・子どもの発達に合わせたからだ作りの重要性を共有し、保育、教育現場での実践に繋げられるよう、研修の充実を図る。
2	個別支援計画を用いた、子どもの姿や支援の共有	<ul style="list-style-type: none"> ・個別支援計画はできるだけ専門用語を使用せず、分かりやすくイメージが共有しやすい表現で記載し、読んで分かる計画になるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問先施設の取り組みを知り、より共感的な支援を行う。 ・アセスメントシートを活用し、子どもの様子や支援状況を把握し、より保育・教育現場で活かされる計画作成を行う。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問先担当者や担任等への意見聞き取りや意向の確認が十分ではない。	<ul style="list-style-type: none"> ・聞き取りの方法や時期等、継続して行うことが困難であったため。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アセスメントシートを配布する時期を定め、訪問先施設の一斉配布することで、聞き取り漏れのないようにする。
2	訪問支援実施前の打ち合わせや実施後の振り返りが十分ではない。	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問支援実施前、実施後に口頭で情報共有は行っているが、支援の振り返りや次回訪問時に行う支援を確認する機会が設けられていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月、訪問担当者で会議を実施し、支援の振り返りや訪問先施設へのフォロー方法などを検討し、継続した支援が提供されているようにする。

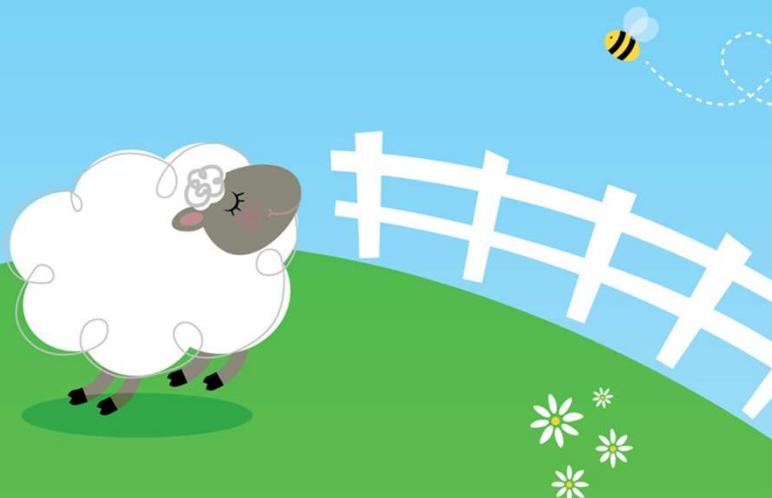


社会福祉法人名張育成会

いが児童発達支援センターれいあろは

“れいあろは”とはハワイの言葉で、

“Leialoha=愛おしい我が子”という意味があります。



児童発達支援事業 支援プログラム（公表）

児童発達支援事業所は、令和6年度の報酬改定におきまして『領域を含む総合的な支援を提供すること』が基本になりました。

作成日：令和8年2月10日

支援プログラム作成について



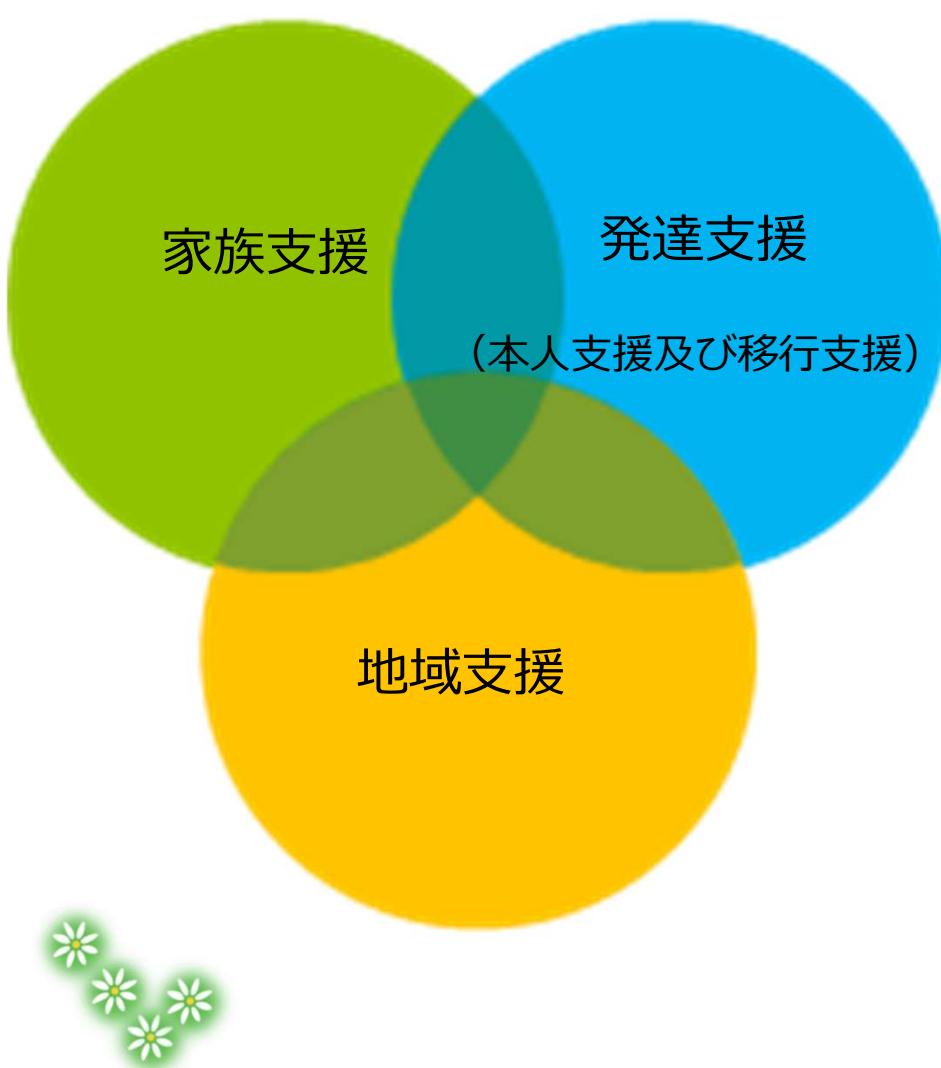
ひとりひとりの状況や状態を観察、把握し、『育つ力』に沿った支援を行います。

れいあろはでは、ひとりひとりの“好き”に寄り添い、『育つ力』の土台になる、**基本的な生活習慣、運動遊びや感覚遊びを中心**に活動を提供しています。

ひとりひとりにあった支援を提供するために、児童発達支援計画を作成し、計画に基づき支援をしています。また、状況や状態の確認を行い、定期的に児童発達支援計画の見直しを行っています。



3つの支援



れいあろはでは、5領域に基づく保育プログラムを組み合わせ、多職種協働で活動を提供しています。
5領域はそれぞれが個々に発達するのではなく、相互に関連し合い、重なり合っています。

5領域のねらい



- ・健康状態の維持・改善
- ・基本的生活スキルの獲得

- ・生活リズムや生活習慣の形成



- ・姿勢と運動・動作の向上
- ・保有する感覚の総合的な活用

- ・姿勢と運動・動作の補助的手段の活用



- ・認知の発達と行動の習得
- ・対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得

- ・空間・時間、数等の概念形成の習得



- ・言語の形成と活用
- ・コミュニケーションの基礎的能力の向上
- ・コミュニケーション手段の選択と活用
空間・時間、数等の概念形成の習得



- ・他者との関わり（人間関係）の形成
- ・仲間づくりと集団への参加

- ・自己の理解と行動の調整

理念

ありのままのキミがいい

支援方針

1 自分が好き

安心安全な場所で自分を表現する力を育みます。

2 あそびが好き

五感を通して様々な経験をし、あそぶ力を育みます。

3 みんなが好き

生まれてきてくれたことが素晴らしい、無条件に愛されることで人を信じる力を育みます。

子どもの姿

自分を信じられるこども。

「やってみたい」を育て、思いっきりあそぶこども。

ひとりできなくとも、みんなでやってみるこども。



れいあろはについて



営業日

月曜日から金曜日

- ※ 行事等の場合は土曜日開所あり
- ※ 祝祭日、夏季休暇（8月13日～8月15日年末年始（12月29日～1月3日）を除く

営業時間

サービス提供時間 9時～16時

(営業時間は8時30分～17時30分)

送迎

自宅、保育所（園）、こども園、幼稚園、託児所への送迎あり

- ※ 各送迎車に『置き去り防止装置』設置あり

給食

あり（1食300円）



れいあろはの支援内容

5領域との関連性を明確にした発達支援プログラムを作成し、プログラムを実施します。



健康・生活

体を十分に動かし、楽しく食事をすることで、健康的な体作りのための土台を構築していきます。

生活場面では『心地よさ』や『自分でやりたい』などの気持ちを大切に、ひとりひとりのこどもに合わせた環境を整え、支援します。

運動・感覚

こどもの興味や関心に合わせた運動遊びや感覚遊びを行い、十分に体を動かしていきます。遊びを通して様々な感覚を刺激したり、様々な姿勢を経験したりすることで、体作り（バランス感覚、力加減など）を行います。



認知・行動

遊びを通して、様々な形・色・音・重さに触れ、こどもが感じた感覚に共感しながら活動します。またこどもが自ら遊びを変化させたり、創造を膨らませたりできる環境を整え、実体験を通して様々な気付きを増やせるようにしています。

言語

コミュニケーション

視線や表情、身振り、言葉などこどもの様々な表現を受け止め、丁寧に関わります。自分の気持ちが伝わった経験を重ね、『もっと伝えたい！』『伝わるって心地いい！』という気持ちを育てていきます。聞く、見る、体験してみる等、ひとりひとりに合わせた方法で、こども自身が分かる実感が持てる機会を増やしていきます。

人間関係 社会性

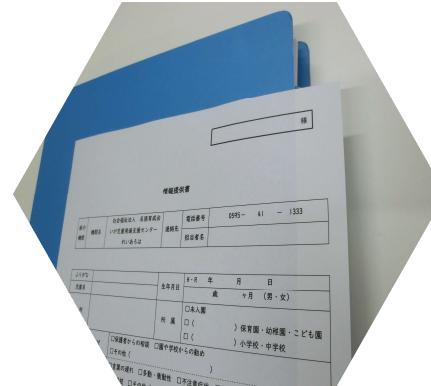
こどもの『好き』な気持ちに寄り添い、『好きなこと』を大切にしています。好きなことを大人と一緒にする楽しさ、友達と一緒にする楽しさを感じながら活動できるようにします。小集団活動では、『みんなとやってみたい！』気持ちを育て、こどもに合わせた方法で共に楽しむ経験を重ねていきます。

れいあろはの支援内容



家族支援

日常生活・子育て・就園・就学・医療・福祉サービスなどの相談を電話や面談にて行っています。



移行支援

保護者の依頼に応じて、今後の生活に必要な施設間移行に向け、情報提供書を作成します。 (別途費用必要)



地域支援

地域の保育、教育などの支援を受けることができ、こどもが成長できるよう、関係機関と連携を図っています。



主な行事

夏祭りやクリスマス会など季節に合わせたイベントの実施
親子で遊ぼう会の実施
保護者勉強会の実施
卒園イベントの実施



職員の質の向上に関する取り組み



職員研修

訓練

運動発達に関する研修、事例検討会の実施

外部講師による発達研修、こども園との合同研修

コンプライアンス研修、虐待防止に関する研修

事故防止に関する研修・訓練

感染症に関する研修・訓練、防犯研修・訓練

BCPに関する研修・訓練

など



私たちの願い



れいあろはでは、“自立”という言葉の意味を『self-reliance』 = 『自分を信じる』という意味と考えています。

発達支援の根幹は、何かができるようになることを目指すのではなく、『自己肯定感』を育み、こども自身が持つ『育つ力』を見守ること、だと考えています。“心が健康なこども”は、豊かな人生を送っていくと信じています。

私たちは障がいの有無やまた、子どもの抱える背景に関わらず、「心身共に健康に育って欲しい」と願っています。

